

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
川南町	大内地区 (大内・住吉)	令和4年3月30日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	65.6 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	40.7 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	23.4 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	16.9 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.6 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	4.4 ha
(備考)	

注1: ③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2: ④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3: アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4: プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

大内地区内において、今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも、70歳以上で後継者未定(不明)の耕作面積の方が上回っているため、新たな農地の受け手の確保が必要である。
また、山間部に位置するため鳥獣被害対策も必要である。

注: 「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

大内地区(大内・住吉)は、水稻、野菜、飼料作物を主とする担い手にある程度集積されており、今後も引き続き地域内で集積・集約化を図ると共に、入り作農家や新規就農者等地域外からの担い手の確保に努める。

注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。